

玉塵
東韻
永祿六亥二月廿五夜始

東大明寺住持東 礼記ノ下トナリ日ハ東カラツレノ東ハ方ノハヒスナリ
大明ト云ハ天下トカトツモ同クノニルモト夫ハト云ノ東カラアヤケナツ
行クルノ日ノ東カラツレトモトニ 駕吉但赤ハ毛詩ノ東山ノ南
洞ノ名ト云ハ東方ノ國エエカウスネトモトヤ車ツコレエト云
心ツ車ハ心ツ馬ノ字ニ下ニカインネトモト又車ニモなスレト
云ツ車ニモヤ牛カヒク者ツ 驛馬ト云ハ四足ノ引ノ六足ヲモ
大ナ車ハ引ソニハワレトモト毛詩ニヨムノ 頌ニヨムツニカイゴトニ
カワソツトモツト云ハ心ヲ 頌ノ字ヲモツトヨムツ 汝 汝 汝 汝
則東流ト云ハ水ノ夕エチアル大流ヲ東ノ方ツホリアケル第工流ノ
決ハナクレト云ハ裂ト心同ノ決河ト云ハアルツ大流カケレトコ
エモ水ノ流ツモリ堤ヲトキルヲモ決ト云ハ流ニ決ト云ハ行ト盛
アリ水ハ第工流モノナリ決同方トニソカワトノ水モ流ト出テ

玉塵抄 (内題「玉塵」)

惟高妙安 (京相国寺僧) 述

慶長2年写 55冊 袋綴

たて27cm よこ20cm 一面14行

米沢藩旧蔵

『韻府群玉』 卷1至卷6の口語抄

<請求記号 かー1>